

令和6年度 委員会行政視察実施報告書

委員会名	広報広聴委員会
参加委員	◎金沢広美 ○村越深典 中村知義 武田紗知 飯島裕貴 古市順子 高田 忍 石合祐太 齊藤加代美

◎委員長、○副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

当市においても市民に幅広く議会活動の広報周知を行うべく、市議会だよりの作成・発行を行ない広報広聴に努めているが、物価高騰による紙面の仕様変更などに伴い、さらなる創意工夫が必要となってきている。

また、委員自らが撮影、製作、配信までを行うWEB議会活動報告を第5期前期から行っているが、動画の再生回数に伸び悩みがあり、コンテンツの充実、視聴回数の向上が課題であることから、開成町の先進的な議会広報の取組を学ぶべく視察に伺った。

2 実施概要

実施日時	視 察 先	神奈川県開成町
令和7年1月22日（水） 13時30分～15時00分	担当部局	広報広聴常任委員会 議会運営委員会 議会事務局
視察事業名	議会広報について	
報告内容	<p>1 視察先の概要 総人口 18,566 人 面積 6.55 km² 財政力指数 0.86</p> <p>神奈川県西部、足柄上地域の中央部に位置し、酒匂川を境界に北から東にかけて山北町、松田町、大井町に接し、西は箱根外輪山を背にする南足柄市に、南は相模湾を望む小田原市に接している。東西 1.7km、南北 3.8km で総面積 6.55 km² と神奈川県で一番小さな町、東日本全体でも最小の町である。2025年2月に町制施行70周年を迎える。</p> <p>2 視察先の特徴 開成町の総人口は、昭和30年の町制施行以来、一貫して増え続けており、人口増加率（国勢調査）7.7%は全国16位、神奈川県内では直近の令和2年まで4回連続1位で、年少人口割合（国勢調査）14.8%も県内1位である。住環境施策、子育て施策に力を入れてきたことで30代を中心に若い子育て世代に選ばれる町になっている。</p>	

3 視察事項

「議会広報改革」

- ・「読む」から「見る＝魅せる」への改革
なぜ、今、「読む」から「見る」なのか。

「情報を迅速に発信する必要性」

情報はSNSで即時受け取る時代で議会活動の発信も迅速化が必要である。

「情報を分かりやすく発信する必要性」

ホームページにPDF等を貼り付けて終了していたが、町民に読ませることで満足せず、動画を取り入れて議会から話しかけ、呼びかける「見ていただくこと」が必要である。

(1) 委員会体制

開成町議会では、議長を除く議員（11名）が広報広聴常任委員会に所属している。

- ・広報分科会＝町民に議会活動を広く伝える（議会だよりの作成・発行を担当）
- ・広聴分科会＝広く町民の意見を聴く（議会報告会を担当）

委員会内の2つの分科会に半数ずつ所属し、議会広報広聴の取組を進めている。

議会事務局職員は3名であり、行政視察の対応も該当委員会所属議員を中心に行っている。

(2) 取組を進める上で

- ・広報が、議会活動「議員」ではなく、「議会」活動として町民目線での発信となっているか
- ・幅広い世代に議会に関心を寄せていただく取組となっているか
- ・「今」の取組が時勢に合わない場合は見直す勇気も必要

ア 議会だより

- ・議会広報紙「ギカイだより」の改革

◇従来の議会だよりからの見直しは、令和2年度以前の議会だよりで200部の余りが出ていたこと、発行が本会議の2か月後であるためフレッシュな情報を届けることができていなかったことを踏まえ、デザインの刷新を事務局から提案し、委員会で決定した。デザインを刷新した令和3年8月発行の議会だより207号は、令和3年度町村議会広報コンクールで奨励賞（編集・デザイン部門）を受賞した。

- ◇「一人でも多くの町民に、まずは手に取ってもらいたい」

町制施行以来、人口増加を続けており、特に若い層に関心を持ってもら

いたい、議会だよりに触ってもらいたいという点を重視して令和4年度から見やすいタブロイド版に変更した。

- ・見る＝WEBサイト（動画で配信できるものは動画で配信し、議会だよりに掲載した二次元コードからアクセスできるようにする）
- ・読む＝議会だより（必要な内容だけを掲載できるようにする）

広報紙とWEBサイトの両輪で広報改革を進めることで、手に取りやすく、フレッシュな内容が詰まったタブロイド版での発行を実現した。また、手に取ってもらった時に感動していただける情報発信に努めている。

◇広聴の視点

毎号、発行時の関心項目を列挙した読者アンケートを掲載し、二次元コードから回答できるようにしている。

イ 議会独自のWEBサイトの制作

◇インターネット環境で「検索すること」が当たり前の現在において、最初に目にする議会WEBサイトのデザイン、コンテンツが良くなければ議員プロフィールや政策等にたどり着かない。町のホームページでは容量が不足してしまう、情報にたどり着くまでに3～4クリックが必要で見やすさ、分かりやすさ、探しやすさの実現が難しいことから、多様な動画を取り入れた「見る」WEBサイトを目指し、議会独自のWEBサイト開設に至った。

- ・コンテンツ＝内容を整理し、2クリックで得たい情報にたどり着く
- ・ユニバーサルデザイン＝色の組合せで視覚のバリアフリー化に工夫

◇議員紹介ページではプロフィールを含む各紹介欄に議員本人が提供した写真を使用し、写真をクリックすると議員が動く、議員自らが話す自己紹介ムービーにアクセスできる。写真と動画両方を掲載することでより分かりやすくなるようにしている。

ウ 動画配信

- ・「日本一短く説明します」

◇常任委員会の紹介、活動報告について、委員長が内容を作成し、所属委員が動きをつけ、工夫を凝らした説明で1分程度の動画を製作し、配信している。

◇一般質問

B e f o r e （一般質問の概要予告）→

Q u e s t i o n （一般質問全体の内容）→

A f t e r （一般質問終了後の暫時休憩中に直後インタビュー）
の3本立て。

各議員が通告日に予告動画を撮影しており、20秒という限られた時間

の中、野外で収録するなどこだわりを持って製作に当たっている。また、一般質問終了後のインタビュー動画は臨場感を重視しており、質問が終わってすぐに収録することで議員の熱量を感じることができる内容に仕上げている。

(3) 取組の成果

- ・議会だよりについて賛否が届くようになった
- ・YouTubeの再生回数により、リアルな反応として実感が持てるようになった
- ・身近な議会となるために議員自らが動くことで、「動き」を通じて発信することが浸透し、開かれた議会の実現につながっている

(4) その他

ア 議会改革

(ア)平成26年12月、豪雨災害によって議会を開くことができなかつた経緯を踏まえ、条例制定を行い、通年の会期制に移行した。

(イ)平成17年、働き世代を対象に日曜議会を開催した。令和4年6月定例会からは新たに無料託児サービスも実施。令和7年現在までに18回行っており、傍聴席20席に対して90名の参加があった。席に座れなかった方はモニターで傍聴した。

(ウ)令和2年12月、議員1人にタブレットを1台導入し、ペーパーレス化を図り、議会ICT化を推進した。

(エ)令和3年6月、インターネットで議会映像のライブ配信と録画配信を開始。独自の取組として、一般質問の録画に字幕を入れている。

(オ)令和4年4月、3月定例会の予算審議等を含んだ動画「議会報告会」の配信を開始。議会基本条例に規定以来毎年、町民、自治会、各種団体等を対象とする議会報告会を実施してきた。コロナ禍で中断していたが、令和5年1月、庁舎1階町民プラザで、対面での議会報告会、意見交換会を再開。

(カ)令和5年、議会を身近に感じてもらうことを目的に、中学生以上を対象に議場を自習室として一般開放した。利用実績26日間で156名が利用した。

イ 改革の成果

(ア)令和3年度から令和5年度まで3年連続で全国町村議会表彰を受賞する。

(イ)第18回マニフェスト大賞において、議会改革賞を受賞する。「2年間の日本一多岐にわたる議会の取組～チーム議会・議会事務局力～」

(5) 今後の課題

広報分科会と広聴分科会の連携は必須であり、一過性の取組ではなく将来にわたって継続した取組としていくことが重要である。さらなる改革として、情報発信、内容の充実を図るため、広報、広聴機能の強化、現在分

かかれている広報広聴の各分科会の統合が必要という考えも出ている。



当市議会においても議会だより発行に当たって手に取ってもらえる紙面づくりは常に課題としてあり、広報紙とインターネットの両輪を活用して情報をすみ分け、「読むから見る＝魅せる」広報に努めることは、市民へより議会活動を知ってもらうために必要だと感じた。

当市議会では、第5期前期の広報広聴委員会から、市民意見、要望をより幅広く広聴できるよう議会報告会の形を変更し、各常任委員会ごとに開催する車座集会を実施している。また、委員自らがWEB議会活動報告の撮影、編集を行う手作りの取組を新たに実施し、令和6年度には野外で撮影した新たな取組も見られた。さらに取組を広げていくとともに、開成町で教えていただいた動画のオープニングから引きつけられるパフォーマンスを取り入れるなど、動画の視聴回数が上がる工夫を順次展開したいと考える。さらに、視聴につなげる細かな努力を行なっていくことが重要で、SNS等で情報配信を行う際に動画へのリンクを必ずつけるなどすぐにも実践できる内容を伺え、大変学びの多い視察となった。

また、視察の際は、広報広聴常任委員会と議会運営委員会に対応いただいた。開成町においても当市議会同様、対面での議会報告会、各種団体との意見交換会を実施し、そこで得た住民の声を各常任委員会の活動に生かしていることを踏まえて、当市議会においても議会活動へ市民の意見をより一層反映できるよう、両委員会で情報、課題を共有する連携強化が必要であると強く感じた。



考 察
(まとめ:市政に活かせると思われる事項等)

令和6年度 委員会行政視察実施報告書

委員会名	広報広聴委員会			
参加委員	◎金沢広美 飯島裕貴 齊藤加代美	○村越深典 古市順子	中村知義 高田 忍	武田紗知 石合祐太

◎委員長、○副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

八尾市の「やお市議会だより」は中核市議会報コンクールにおいて、平成30年度に優秀賞を受賞。また、令和4年度には審査員特別賞を受賞している。

「市議会×高校生プロジェクト」と題した高校生とのコラボレーションを企画し、若い世代に議会への興味・関心を高めていただくため、議会だよりの表紙に学生の美術作品や、活動写真を掲載するなどの取組を進めてきた。また、Meet & Greetと題した高校生との座談会を開催し、高校生から議会広報に関する忌憚のない意見をいただき、誌面に反映することで、より見やすい議会だよりを作成し、多くの人に興味を持っていただけるよう取り組んでいる。

上田市では議会報告会として議員と市民との意見交換の取組を行っているが、さらなる取組の充実が求められるため、「開かれた議会」を着実に進め、情報発信に努めている八尾市を視察し、今後の参考にしたい。

2 実施概要

実施日時	視 察 先	大阪府八尾市
令和7年1月23日(木) 10時00分～11時30分	担当部局	議会事務局
視察事業名	議会だより、議会ポスターについて	
報告内容	<p>1 視察先の概要 総人口 261,998 人 面積 41.72 km² 財政力指数 0.71</p> <p>八尾市は、大阪府の内陸中央部にあり、大阪市の東南部に隣接し、市域西側はおおむね平坦で、標高は10メートル程度である。市の東部は高安山をはじめとする急峻な生駒山系が控えており、奈良県との府県境を形成している。</p> <p>2 視察先の特徴 中小企業を中心に1,200を超える製造事業所が集積する「ものづくりのまち」であり、スマートフォン部品や、自動車部品などを生産している。特に地場産業の歯ブラシの生産は全国1位である。</p>	

3 視察事項

(1) 広報について

ア 議会だより

議会だよりの編集方針は、「“伝える誌面づくり”から“伝わる誌面づくり”へ」で、分かりやすい誌面を目指している。

編集委員は、無所属を除く各会派から1名、所属委員会を考慮し選出し、委員長には副議長が就いている。取材や写真撮影は編集委員が行っている。

発行は、年5回（定例会号4回、臨時会号1回）。予算は、令和6年度で、印刷製本費、点字版作成委託料、声の議会だより作成委託料等で12,163,588円である。

また、平成11年3月定例会号から、配布回数を減らすために市政だよりとの合冊を行っている。印刷部数は140,000部（市内全世帯（世帯数128,254）、市内公共施設、駅などに配布）で、印刷業者から受け取った宅配業者が全戸配布している。また、目の不自由な方用に、「点字の議会だより」や「声の議会だより」を50部ずつ発行している。配布先は、八尾視覚障がい者福祉協会会員のうちの希望者、図書館、公共施設である。

一般質問における個人質問の誌面では、議員一人一人に二次元コード（個人質問録画映像を視聴できる）を付け、表題の頭に質問に応じたアイコン（アイコンを見ると一目で議員の質問内容が想起できる）を掲載しているのが特徴で、見やすくまた、分かりやすい内容となっている。

イ 議会ポスター

議会開会ポスターは、市民に関心を持ってもらい、より理解を深めていただくための広報として、平成30年9月定例会から定例会ごとに作成し、ホームページや市役所庁内、駅などに掲載している。議会だよりの制作費の中で実施しているため、予算は特に計上していない。議会ポスターの効果か、年により変動はあるが市議会傍聴者数は年々増えてきている。

(2) 広聴について

ア 高校生プロジェクト

平成29年度から高校生とコラボレーションした様々な取組を行っている。令和元年度からは、編集委員である議員が学校に訪問し、インタビューや写真撮影を行っている。

(ア) 議会だよりの表紙に、高校の美術部や書道部などの作品や高校生の活動写真を採用した。

(イ) 高校生に議会や議員に関するアンケートを行い、その疑問に対して議員が回答する特集記事を議会だよりに掲載した。

また、高校生への取材の際に、高校生に議会や議員に関する説明を行い、また、市域の生徒会に議場を開放し、議員との意見交換会を実施するなど、若い世代に議会に関心を持っていただく機会を設け、開かれた

	<p>議会を実践している。</p> <p>イ やお未来会議 平成28年7月実施の参議院議員通常選挙で選挙権年齢が18歳以上に引き下げられた。新たに有権者となる学生に選挙制度を通じてどのように市議会や市政に参画するのかについて考え、行動してもらう契機にすることを目的として、「選挙制度への理解を深める」と「議会制民主主義への理解を深める」の2部構成で行った。第1部では、大阪府選挙管理委員会事務局職員による「選挙を知る授業」が行われた後、模擬市議会議員選挙を実施した。第2部では、市内4高等学校から八尾市の課題や未来に望むことが発表され、議員がコメント等を行った。</p> <p>その他の取組として、①八尾まめっこ議会2013、②八尾河内音頭まつり議会、③防災・河内音頭まつり議会、④八尾っ子おしごと体験、⑤Meet & Greet with 八尾市議会等がある。</p> <p>Meet & Greet with 八尾市議会では、学生に参加いただき、これまでよりも議会を身近なものに感じていただいた。学生からは、「もっと堅い人たちばかりだと思ったが、話しやすく、真剣にこちらの話聞いてくれた」、「政治への興味が増した。ほかの人にも同じような機会があればいいと思う」などの意見が出た。</p> <p>ウ 近隣大学との連携 平成30年度・令和元年度に、近畿大学法学部の授業にてパネルディスカッションを行った。</p> <p>パネルディスカッションでは、「市議会議員から見た地方行政の課題を学生に伝える」をテーマに、「なぜ議員になったのか」、「今の八尾市の課題は何なのか」、「尊敬している政治家はいるか」、「議員活動で達成感を得たことは」等、様々な内容でのパネルディスカッションを行った。令和2年度は、法学部の学生向けに座談会を収録し、授業で配信した。近畿大学とは連携協定を締結していないが、今までに連携の実績がある。</p> <p>また、平成25年に大阪経済法科大学と地域連携に関する覚書を締結している。地域連携については、八尾市議会から大学にアプローチを行った。</p>
<p>考 察 (まとめ:市政に活かせると思われる事項等)</p>	<p>議会だよりの製作では、「“伝える誌面づくり”から“伝わる誌面づくり”」を目指している。また、市政だよりと合冊し発行している。個人質問の誌面では、各議員ごとに二次元コードやアイコンを掲載してより分かりやすくなっている。</p> <p>議会ポスターでは、議会開会のお知らせを行い効果を上げており、上田市においてもすぐに取り組める。</p> <p>広聴活動では、市内高校生とコラボレーションした様々な取組や、近隣大学との連携・パネルディスカッション等の取組があり、大変参考になった。</p>

